

## 新型コロナ休校からの学校再開にむけて 大人が知っておきたいこと

### ～病弱教育の臨床の知から学ぶ～

1. 日時：2020年5月31日(日) 15:30～17:00 (zoomを使用、参加費無料)

2. 講師：<sup>そえじま まさかず</sup>副島 賢和 氏 (昭和大学大学院保健医療学研究科 准教授)

昭和大学附属病院内学級担当 学校心理士スーパーバイザー

東京都公立小学校教諭として25年間勤務 06～13年品川区立清水台小学校「昭和大学病院内さいかち学級」担任 2014年4月より現職

NPO法人元気プログラム作成委員会理事 NPO法人YourSchool 理事

日本育療学会理事 北海道・横浜こどもホスピスプロジェクト応援アンバサダー

TSURUMI こどもホスピスアドバイザー

著書『あかはなそえじ先生のひとりじゃないよ』(教育ジャーナル選書/15年)

『赤はな先生に会いたい!』(金の星社/18年)等



ホスピタル・クラウン  
姿の副島氏

司会：和井田節子(共栄大学)

3. 概要：3ヶ月続いてきた新型コロナウイルス感染症拡大予防に伴う休校も学校再開も、試行錯誤の連続で、学校危機状態です。以下は、副島先生の言葉です。



「今回の感染症による休校要請によって、子どもたちに対するネガティブな影響は、学習の空白・学習時間の確保・運動やあそびの制限・集団活動の不足・経験の不足や偏り・人との関わりの制限、などが考えられます。

これらのことへの対応は、私たち病弱教育の教員や病棟の保育士さんたちが今までも考えておこなってきたことだと思うのです。特に今回の難しいところは、人と関わることが悪い方向にいきかねないというところ、人との関わりの制限にあります。友達と関わる、人と関わることを大切に考えてきた学校教育においてはノウハウの蓄積がうすいところでしょう。しかし、これも病弱教育では、みんなで試行錯誤をしながらおこなってきたことです。休校中はもちろんですが、学校が再開されたときに出てくるであろう子どもたちをどう理解するのか。私たちの臨床の知がお役に立てるのではないかと考えています。」

4. 申し込み方法：下記の URL より **2020年5月29日20時まで**にお申し込みください。

Zoom 研究会の参加に必要な情報を、当日の開催時刻前にメールでお知らせします。

<https://forms.gle/rgCBRqKgtAYbXpXw9>

皆様のご参加をお待ちいたします。

お問合せ先：金馬国晴(横浜国立大学) [kinma@ynu.ac.jp](mailto:kinma@ynu.ac.jp) (@は半角にして送ってください)